

今日の説教のポイント <創世記1章1-10節>

①神の語りかけで世界は始まり、整えられていった。人間もその被造物の一つ。神の言葉に聞いて生きるときに、私たちも整えられていく。

神が「在れ」と言葉を語りかけると、色んなものが存在し出した。これが誰もが気づく創世記一章の特徴です。語りかけられたということは、「語りかけるお方が存在している」ということです。私たちの存在の根拠はまず神の存在にある、と聖書は語りかけているのです。

さらに私たちはここを読んで、神様が語り続けて行かれる中で、世界がどんどん「整えられていく」ことを覚えさせられます。ただ、造られた、だけではないのです。この造り主なる神様を覚えて、その言葉に聞き、「整えられながら」生きていくときに、私たちは本当に「生きている」と言える道を歩めるのではないのでしょうか。

新約聖書の中の『ヨハネによる福音書』は、「初めに言があった。言は神であった」で始まります。やはり言葉が重要で、それはイエス・キリストを指しています。新約聖書を読んでいく中で私たちは主イエスを知り、このお方を通して、深い赦しと愛に富み給う神様がおられることを知らされて行くのです。

②生物登場前の世界。それは生物が生きるための舞台。その舞台ができた時、神は良しとされた。私たち人間はこれを大切にしなければ。

10節には、第三日の途中であるにもかかわらず、「神はこれを見て、良しとされた」とあります。ここまでの時間（3～5）と空間（垂直6～8、水平9～10）の創造であり、この後から生物の創造に入ります。考えてみれば、この生物前の舞台なくして生物は存在し得ません。原発事故で放射性核種が世界中にまき散らされ、生物が生存するための世界の汚しが問題になっている現代です。聖書が告げるこの順序（舞台→生物→人間）の重要性を今ほど理解できる時代はないのではないのでしょうか。人間は言葉を介して神様とやり取りできる唯一の被造物として造られた、と聖書は告げます。それは人間だけでなく被造物全体が神様に感謝できるように見守って行く重い役割を人間が担っていることをも意味しているのです（「支配せよ」[28節]の真意）。